

# 令和7年度 事業報告

社会福祉法人磐田厚生会 おおふじ学園

## 目 次

1. 法人	1
2. おおふじ学園	4
(1) 生活介護事業	11
(2) 障害児通所支援事業	16
(3) 短期入所事業	18
(4) 日中一時支援事業	19
(5) 入浴サービス事業	20
(6) 相談支援事業	21

# 1. 法人

## (1) 理事会、評議員会の開催

回	開催日	会場	審議事項(概要)
第218回 理事会	令和 7.6.9	研修棟	1 第1号議案 令和6年度社会福祉法人磐田厚生会法人及び施設の事業報告について 2 第2号議案 令和6年度社会福祉法人磐田厚生会法人及び施設の決算報告について 3 第3号議案 令和7年度社会福祉法人磐田厚生会おおふじ学園拠点区分第1次補正予算について 4 第4号議案 社会福祉法人磐田厚生会社会福祉充実計画について 5 第5号議案 社会福祉法人磐田厚生会（理事・監事）候補者の選任について 6 第6号議案 社会福祉法人磐田厚生会評議員選任解任委員会運営細則の一部改正について 7 第7号議案 社会福祉法人磐田厚生会（評議員選任解任委員）の選任について 8 第8号議案 社会福祉法人磐田厚生会（評議員）候補者の推薦について 9 第9号議案 第5回社会福祉法人磐田厚生会評議員選任解任委員会の開催について 10 第10号議案 第86回社会福祉法人磐田厚生会評議員会の開催について
第86回 評議員会	令和 7.6.24	研修棟	1 第1号議案 令和6年度社会福祉法人磐田厚生会法人及び施設の事業報告について 2 第2号議案 令和6年度社会福祉法人磐田厚生会法人及び施設の決算報告について 3 第3号議案 令和7年度社会福祉法人磐田厚生会おおふじ学園拠点区分第1次補正予算について 4 第4号議案 社会福祉法人磐田厚生会社会福祉充実計画について 5 第5号議案 社会福祉法人磐田厚生会（理事・監事）の選任について 報告事項 (1) 社会福祉法人磐田厚生会評議員選任解任委員会運営細則の一部改正について (2) 社会福祉法人磐田厚生会（評議員選任解任委員）の選任について (3) 社会福祉法人磐田厚生会（評議員）の候補者について (4) 第5回社会福祉法人磐田厚生会評議員選任解任委員会の開催について

第 219 回 理事会	令和 7.6.24	研修棟	1 第 1 号議案 社会福祉法人磐田厚生会（理事長）の選任について  報告事項 (1)社会福祉法人磐田厚生会評議員の選任について
第 220 回 理事会	令和 7.11.10	研修棟	1 第 1 号議案 令和 7 年度社会福祉法人磐田厚生会おおふじ学園上半期事業報告について 2 第 2 号議案 令和 7 年度社会福祉法人磐田厚生会おおふじ学園上半期会計報告について 3 第 3 号議案 令和 7 年度社会福祉法人磐田厚生会おおふじ学園拠点区分第 2 次補正予算について 4 第 4 号議案 第 8 7 回社会福祉法人磐田厚生会評議員会開催について  報告事項 人事異動について
第 87 回 評議員会	令和 7.11.20	研修棟	1 第 1 号議案 令和 7 年度社会福祉法人磐田厚生会おおふじ学園上半期事業報告について 5 第 2 号議案 令和 7 年度社会福祉法人磐田厚生会おおふじ学園上半期会計報告について 6 第 3 号議案 令和 7 年度社会福祉法人磐田厚生会おおふじ学園拠点区分第 2 次補正予算について  報告事項 (1)人事異動について
第 221 回 理事会	令和 8.3.	研修棟	
第 88 回評 議員会	令和 8.3.	研修棟	

(2) 監査等

区分	監査日	執 行 者	指 摘 事 項
監事監査	令和 7.5.30	磐田厚生会監事	特になし
監事監査	令和 7.10.31	磐田厚生会監事	特になし

## 2. おおふじ学園

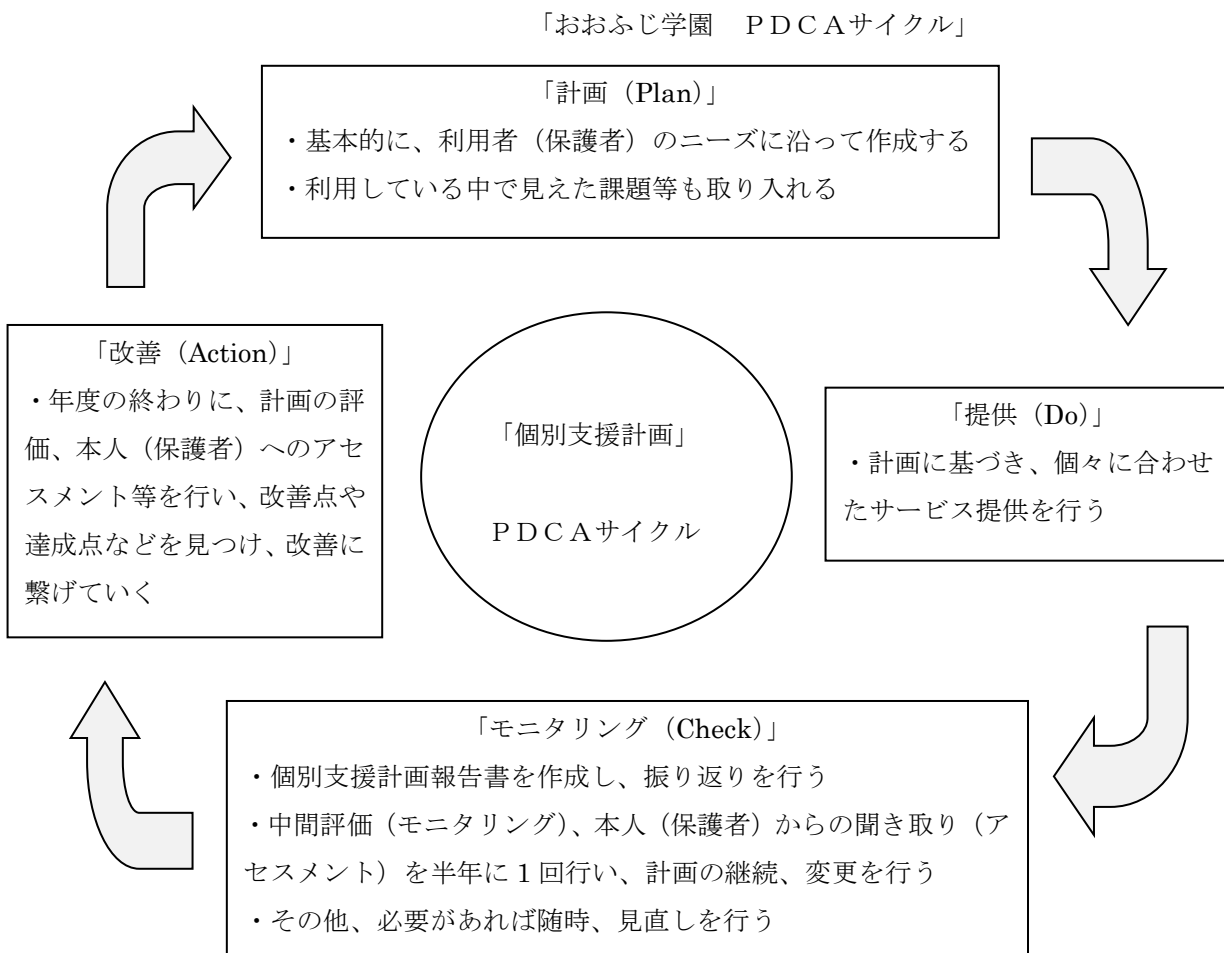
### ① 個別支援計画

#### ア 目的

- 1 利用者の障害の状況とニーズを把握し、個別にきめ細かく支援計画を作成する。
- 2 立案した支援計画を本人（保護者）の同意を得て、職員への周知、実践に役立てる。
- 3 実践を記録に残し、PDCAサイクルを活用し利用者本位のサービス提供をしていく。

#### イ 内容（支援計画策定と実践の流れ）

- 4～8月：個別支援計画に沿って利用者の日常生活支援を実施
- 8～9月：前期の支援結果を検証し個別支援計画の見直しを実施
- 10～2月：見直した個別支援計画に沿って利用者の日常生活支援を実施
- 2～3月：一年の支援結果を検証し個別支援計画の見直しを実施



例えば、自閉症で多動傾向の児童で保護者からのニーズには家で好き勝手動いて困っているとのことだった。これに対し計画を立て、すごろく遊びや色当てなどゲームを通してルールを学習していく支援を行った。日々繰り返し行うことで本人は少しずつルールを覚えていき、保護者とのモニタリングの際は家庭でも待つことができるようになり変化が出てきているとのことだった。しかし、ゲームを通してルールを覚えていく中で、勝ち負けへの関心がないことが分かり改善点が見えてきた。保護者とそれを相談し、色々なゲームを行い遊んでいく中で「勝つといいことがある。」ということを感じてもらい、よりゲームの楽しさを知ってもらうという計画に改善した。

② 学園行事

月/日	学園行事
令和 6. 4. 1	入園式・始業式・お花見会
2	血液検査・尿・便検査
9	胸部 X 線検査・尿・便検査
5. 24	駄菓子バイキング
6. 7	内科健診
18	紫陽花音楽会
7. 19	夏祭り
9. 27	総合防災訓練
28	地域交流会・秋祭り
10. 23	インフルエンザ予防接種
11. 21	大藤小交流会
22	ビンゴ大会
12. 6	内科検診
23	クリスマス会
令和 7. 1. 24	新年会
2. 3	節分の会

定例行事：防災訓練 外出

学園行事については、コロナが落ち着き、外部の方との交流は通常になってきている。大藤小学校の児童との交流では、児童が利用者のそばで触れ合いながら活動を一緒に行うコロナ前と同じ関りが見られた。

地域交流会では、70 名程の来園があり、一輪車や和太鼓などの催し物や、利用者がおもてなしをした出店などを楽しんでいただき交流を行った。

成人を祝う会に代わる新しい取り組みとして実施した新年会では、二十歳になった方の紹介から始まり、お汁粉作り、紙風船や餅つき遊び、フォトスポットでの撮影会をするなど、終日の行事として取り組みを行った。

③ 各種会議及び研修会

開催日	会議・研修名	職名	参加者	主催者
6. 4. 15	事例検討会	相談支援専門員	松井	磐田市
5. 1	静岡県知的障害者福祉協会 第 1 回総会	園長	飯田	県知協
5. 9	西部地区施設連絡会第 1 回施設長会議	園長	飯田	西施連
5. 15	相談支援連絡会	相談支援専門員	松井	磐田市
5. 17	放課後等デイサービス事業所連絡会（袋井特支）	主任	深谷	袋特学
5. 20	相談支援連絡会	相談支援専門員	松井	磐田市
5. 26	施設長・主任者等合同会議	園長	飯田	県知協
		主任	深谷	
5. 30	医療的ケア児者支援者ネットワーク会議	相談支援専門員	松井	磐田市

6.14	放課後等デイサービス事業所連絡会（浜北特支）	主任	深谷	袋特学
6.17	事例検討会	相談支援専門員	松井	磐田市
6.20	医療的ケア児等コーディネーター勉強会	相談支援専門員	松井	磐田市
7.4	第9回 磐田市社会福祉法人連絡会	園長	飯田	磐社協
7.9	障害児通所支援事業所研修会	園長	飯田	磐田市
7.22	障害者相談支援連絡会	相談支援専門員	松井	磐田市
7.23	西部地区施設連絡会	支援員	中村	西施連
7.25	重心部会 第1回コア会議	副主任	齋藤	中遠自協
8.9	安全運転管理者講習	主任	深谷	磐安管
8.19	事例検討会	相談支援専門員	松井	磐田市
9.4	西部地区施設連絡会	支援員	大平	西施連
9.5	強度行動障害支援研究会	支援員	山崎	中遠自協
9.9	障害者相談支援連絡会	相談支援専門員	松井	磐田市
9.13	第1回子ども部会	主任	深谷	中遠自協
9.20	静岡県相談支援従事者現任研修	副主任	袴田	県健福部
9.19	第1回地域生活支援部会	園長	飯田	中遠自協
9.19	磐田市社会福祉法人連絡会合同研修会	副主任	齋藤	磐社協
9.24	磐田市社会福祉法人連絡会「合同研修」	主任	深谷	磐社協
9.26	静岡県強度行動障害支援者養成研修 基礎研修	支援員	大平	静岡県
9.27				
10.3	第60回全国知的障害者福祉関係職員研修大会（福井大会）	主任	深谷	日知協
10.4				
10.8	サービス管理責任者等基礎研修	副主任	齋藤	静岡県
10.9				
10.23	圏域重心部会 第1回支援者連絡会	支援員	中村	中遠自協
10.23	障害児通所支援事業所研修会	主任	深谷	磐田市
10.29	西部地区施設連絡会	支援員	中村蒼	西施連
10.30	権利擁護啓発講座	副主任	袴田	県知協
10.30	中遠地域自立支援協議会 磐田支部運営会	園長	飯田	中遠自協
11.1	静岡県相談支援従事者現任研修	副主任	袴田	県健福部
11.7	医療的ケア児者支援者ネットワーク会議	相談支援専門員	松井	磐田市
11.7	静岡県強度行動障害支援者養成研修 現任研修	支援員	大平	静岡県
11.8				
11.18	障害者相談支援連絡会	相談支援専門員	松井	磐田市
11.20	第2回子ども部会	主任	深谷	中遠自協
11.29	日中活動支援部会研究集会	副主任	袴田	県知協
12.2	障害者差別解消法研修会	相談支援専門員	松井	磐田市
12.5	西部地区施設連絡会	園長	飯田	西施連

12.9	中遠地域自立支援協議会 地域生活支援部会	園長	飯田	中遠自協
12.10	中遠地域自立支援協議会 強度行動障害支援研究会	支援員	後藤	中遠自協
12.17	保険・医療会研究集会	看護師	梅澤	県知協
12.17	静岡県相談支援従事者現任研修	副主任	袴田	県健福部
12.20	障害者相談支援連絡会	相談支援専門員	松井	磐田市
7.1.28	静岡県立磐田学園強度行動障害研修会	支援員	大平	磐田学園
2.7	障害者権利擁護・虐待防止研修会	支援員	鈴木	磐田市
3.5	重心部会 第2回コア会議	副主任	齋藤	中遠自協

#### ④ 保健衛生

##### ア 利用者

- ・毎月体重測定を行い、体重表に記入を行い家庭に報告し体重の増減に配慮した。
- ・必要時に検温や血圧測定を行い利用者の健康を保つよう配慮した。
- ・送迎乗車時、登園時に手指消毒を実施した。密集密接を避けるため昼食時等日中の過ごし方に配慮した。

##### 定期健診

静岡県予防医学協会に依頼し、定期健診を実施した。

##### (a) 胸部 X 線検査の実施

胸部レントゲン車が来園し、胸部 X 線検査を実施した。

##### (b) 尿検査・便検査

尿・便検査を実施した。

##### (c) 血液検査

おおふじ学園避難スペースで採血を実施した。

一部利用者については、かかりつけ医にて実施した。

※定期健診の結果は、持病のある方以外の異常は見られなかった。

##### 内科健診

おおふじ学園相談支援室にて、嘱託医（磐田在宅医療クリニック 福本先生）により、内科健診を実施した。一部利用者はかかりつけ医で行い、全員内科健診を実施した。

##### その他

##### インフルエンザ予防接種

希望者に対して嘱託医（磐田在宅医療クリニック 福本先生）により実施した。

##### イ 職員

- ・健康診断を実施した。
- ・保菌検査を実施した。

#### ⑤ 寄付金及び寄付物品

##### 令和6年度 寄付金（敬称略）

No.	年月日	寄付者氏名	寄付金額
1	R6.8.28	萩田俊子	20,000 円
2	R6.10.10	大石節子	5,000 円

3	R6. 12. 18	シニアクラブ磐田市磐田地区 会長 寺田佳弘	30,000 円
4	R6. 12. 23	大庭ちる子	30,000 円
5	R6. 12. 24	東海ケミカル	18,000 円
6	R7. 3. 25	中崎則之	30,000 円
7	R7. 3. 25	おおふじ学園保護者会	900,000 円

#### 令和 6 年度 寄付物品

No.	年月日	寄付物品名	寄付者氏名	評価額
1	R6. 10. 28	メロン	静岡クラウンメロン 青年部	
2	R6. 12. 9	りんご	NTN労働組合 磐田支部	
3	R6. 12. 18	メロン	株式会社メロー静岡	

#### ⑥ ボランティア（敬称略）

メロウズ・ダリル（英会話教室・クリスマス会）

おおふじ学園保護者ガラス拭き（大掃除）

横山 博則 他従業員（駄菓子バイキング）

カモミール（紫陽花音楽会）

水谷 万記子（卓球バレー）

酒井太鼓、Iwata クローバーカイト、カモミール（地域交流会）

無幻（ラーメン奉仕）

田川 千春（節分）

松尾 貴臣（ホスピタルライブ）

#### ⑦ 実習及び研修

産業現場等における実習（静岡県立袋井特別支援学校）・・・3名

産業現場等における実習（静岡県立西部特別支援学校）・・・1名

介護実習（静岡県立磐田北高等学校）・・・4名

福祉体験教育（大藤小学校）・・・4年生全員

#### ⑧ 施設見学

静岡県立袋井特別支援学校（生徒、保護者）・・・9件

静岡県立浜北特別支援学校（生徒、保護者）・・・5件

他施設・・・2件

#### ⑨ 苦情の状況 0件

⑩ 防災訓練実施状況

訓練日時	想定災害内容		反省事項
4月10日(水) 9時35分	地震	震度5	避難時間 5分36秒 車椅子を有効に使用してスムーズに避難を行った。利用者さんが落ち着いて避難できるよう、職員同士で声を掛け合い避難誘導をした。ヘルメットや防災頭巾を配布し、着用して避難した。中には少しずれて着用している方もいた。(あごひもが閉まっていない、ヘルメットがずれている方がいたので口頭でお知らせした。)
5月8日(水) 13時30分	火災	食堂から 出火	避難時間 4分30秒 クッションチェアやセラピーマットを使用して、安全に避難後に待機した。車椅子を有効に使って、素早く避難した。各職員最短の経路を使って避難場所へ誘導し、移動した。
6月12日(水) 9時55分 ※時間周知なし	地震	震度5	避難時間 4分15秒 職員間で連携してヘルメットの配布、着用をして、避難を行った。ガス発電機の準備、エンジン始動に時間がかかってしまう。外気温も高く、事前に始動までの準備をしておいた方が良くもしい。時間周知はされず突然の防災訓練だったが、個々の職員が冷静に対応し、素早く避難を行った。
7月10日(水) 9時45分	火災	職員室 から出火	避難時間 3分45秒 外気温が高く、熱中症の危険もあるため室内への避難を実施した。マットを使用し、避難場所の安全を確保して避難をした。避難時、車椅子を使う等職員間で声を掛け合い落ち着いて避難した。
8月21日(水) 9時50分	地震	震度5強	避難時間 5分56秒 今回、放デイ利用者さんも避難に参加し、避難後は落ち着いて待機することができた。職員の人数が少ない中であつたが、声を掛けあい、安全に避難誘導をした。吸引器の持ち運びを忘れてしまう事があり、次回以降の意識付けの呼びかけを行った。
9月12日(木) 20時00分	地震	震度5強	避難時間 3分16秒 夜間の屋外への避難をためらう利用者がいた。利用者、職員の安否確認、緊急の応援を呼ぶために使用したLINEの投票システムは、実際の使用方法や投票動作時にミスや困り感が多く、再投稿を繰り返し実施に至った。システムの使用法や間違いやすい動作の確認の良い練習になった。LINEを使用した職員間連絡が初めてだったので、防災担当、訓練実施職員、管理者で初期連絡の取り方について、認識に違いがあつたので修正していきたい。
9月27日(金) 10時00分	総合防災訓練 震度7		避難時間 4分54秒 消防署への通報訓練を行い、新しい職員を中心に担架の使い方を実演を交えて共有した。ガソリンとガスの発電機、両方の始動の手順の再確認と運転確認を実施した。エンジンをかける際スターターロープが切れ

			てしまうアクシデントがあったが、防災訓練中に修復が間に合い確認の実施が行えた。その他には、水消火器を使用して消火器の使い方、消火の手順を確認した。
10月16日(水) 10時50分	火災	たまご作業棟より出火	避難時間 4分57秒 避難開始時にセビーマットやクッションチェアを、避難場所に素早く持っていき用意したことで安全に待機した。活動班が別れた状態での避難訓練だったが、落ち着いて避難を行う。
11月1日(金) 10時50分	地震	震度5	避難時間 5分9秒 職員間で連携して職員や利用者へ、ヘルメットを分配し、着用して避難を行う。避難場所で安全に待機する。車椅子を使用して、素早く避難した。たまご、空き缶作業班は、活動場所からの避難になったが、落ち着いて避難した。
12月11日(水) 14時45分	火災	空き缶作業棟より出火	避難時間 5分9秒 作業棟で活動していた班は、正面玄関付近まで移動して避難したが、慌てず避難を実施する。職員間で連携して、避難誘導、点呼、利用者の見守りを分担して行い、避難をした。
1月15日(水) 10時55分	地震	震度5	避難時間 4分42秒 職員間で連携し合い、安全に避難する。クッションチェアやセビーマットを使って、安全に配慮し避難後、待機する。
2月12日(水) 10時55分	火災	ホールから出火	避難時間 6分50秒 利用者避難後点呼、所在不明者がいることに気づく。敷地内を探し、缶部屋の前にいた利用者に気づき、避難場所に避難する。利用者の所在把握や点呼の方法なども含め、確認する手順を話し合い、改善する必要がある。
2月13日(木) 20時00分 (短期入所)	地震	震度6	避難時間 1分35秒 訓練時は落ち着いて机の下に待機して、避難をする。訓練結果を園長に連絡して、LINEを使用した連絡体制の確認や安否確認を共有した。2名が未返信だったが、前回よりもLINEでの返答率が上がっており、今後も返答率が上がるよう継続して行っていきたい。
3月13日(木) 9時55分	地震	震度5	避難時間 3分14秒 セビーマットを使って、安全に避難場所で待機をした。車椅子を使って、利用者さんの避難をした。点呼時、職員間で連携して利用者さんの所在確認を行い、素早く避難完了した。

## (1) 生活介護事業

指定生活介護事業所おおふじ学園は、利用者がその生活において主体的に過ごし、自己実現及び自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、事業所機能を活かした日常生活支援や作業活動支援など必要な支援をすることを目的としている。

### ① 対象者

知的障害者、重症心身障害者

### ② 利用者の状況

#### 男女別年齢別利用者数

(単位:名)

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男	2	7	4	5	4	2	24
女	0	7	5	3	2	0	17
合計	2	14	9	8	6	2	41

#### 男女別障害支援区分

(単位:名)

区分	3	4	5	6	合計
男	0	6	7	11	24
女	0	3	3	11	17
合計	0	9	10	22	41

#### 身体障害者等級区分表

(単位:名)

区分	1	2	3	4	5	合計
男	7	0	3	0	1	11
女	9	1	0	0	0	10
合計	16	1	3	0	1	21

### ③ 利用者の入退園

令和6年 4月 1日:2名入園

令和6年 11月 27日:1名退園    11月 29日:1名退園

令和7年 3月 17日:1名退園    3月 31日:1名退園

※小数点第2以下四捨五入

※総利用者数＝開園日数×利用登録者数

※合計（％）＝延べ利用者数÷総利用者数

④ 月別利用者数（出席率）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開園日数(日)	22	23	20	23	21	18
総利用者数(人)	902	943	820	943	861	738
延べ利用者数(人)	698	743	641	748	573	493
延べ欠席者数(人)	204	200	179	195	288	245
ほのぼの出席率	82.1%	84.5%	84.0%	84.3%	72.9%	68.7%
悠遊出席率	64.5%	63.2%	62.3%	65.6%	49.4%	61.6%
合計	77.4%	78.8%	78.2%	79.3%	66.6%	66.8%

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計(平均)
開園日数(日)	23	21	21	20	20	21	253日
総利用者数(人)	943	861	819	780	780	819	10209人
延べ利用者数(人)	711	635	592	568	599	609	7610人
延べ欠席者数(人)	232	226	227	212	181	210	2599人
ほのぼの出席率	81.0%	76.7%	78.6%	80.0%	82.3%	79.4%	79.7%
悠遊出席率	60.1%	65.8%	56.3%	54.5%	62.7%	61.5%	60.7%
合計	75.4%	73.8%	72.3%	72.8%	76.8%	74.4%	74.5%

出席率減少の主な要因

- ・8月、9月はコロナ感染者が出た影響で、一定期間のあいだ自宅療養する方や、感染予防のため自主的に自宅待機をする方々などの欠席があり、出席率は他の月に比べて低くなっている。
- ・9月にはおおふじ学園でコロナが蔓延し、9月18日から20日まで3日間閉園した。そのため9月の開園日数は18日となっている。

⑤ 送迎サービス

目的

おおふじ学園利用者を対象に、保護者の送迎の負担を軽減するため施設と自宅間で送迎サービスを行うことを目的とする。

ア 内容

- ・運転手及び介助職員で送迎実施

- ・4月～7月迎え…8時出発、送り…16時00分出発 車両は5台使用 (送迎車利用者 23名)
- 8月～3月迎え…8時出発、送り…15時30分出発 車両は4台使用 (送迎車利用者 23名)

	4月～7月	8月～3月
リースハイエース	: 4名	5名
ハイエース	: 6名	7名

ハイエースロング : 5名 (うち車いす使用2名)      6名 (うち車いす使用2名)  
 キャラバン : 4名 (うち車いす使用2名)      5名 (うち車いす使用2名)  
 24ハイエース : 4名

イ 利用の状況

月別送迎者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施日数	22	23	20	23	21	18	23	21	21	20	20	21	253日
迎え	416	449	389	442	347	278	423	324	320	316	322	328	4354人
送り	374	397	352	405	310	243	381	297	276	277	284	294	3890人
送迎	790	846	741	847	657	521	804	621	596	593	606	622	8244人

⑥ 日課表

R6. 4月～7月

	月	火	水	木	金
8:00	送 迎				
8:30	活動準備・清掃 利用者登園 (更衣・トイレ)				
9:00	朝の集会 (活動予定確認)				
	運動 (ラジオ体操)				
9:30	(平常) 芸術工芸 空き缶・たまご ほのレク・悠遊	平常	平常 ドライブ (第1・3) 掃除 (第1・3)	平常 + ほのぼの卓球 (毎週)	平常
11:30	昼 食 休 息				
13:30	(平常) 芸術工芸 空き缶・たまご ほのレク・悠遊 + 悠遊マッサージ	平常	平常 会議 (最終)	平常 + ほのぼの マッサージ	ホームシアター + ミーティング
15:30	降園準備 (更衣・トイレ)				
16:00	送 迎 利用者降園				

※月の最終水曜日は14:00降園で職員は職員会議を実施。

8月～R7.3月

	月	火	水	木	金
8:00	送 迎				
8:30	活動準備・清掃 利用者登園（更衣・トイレ）				
9:40	朝の集会（活動予定確認）				
	運動（ラジオ体操）				
10:00	(平常) 芸術工芸 空き缶・たまご ほのレク・悠遊	平常	平常 ドライブ (第1・3) 掃除 (第1・3)	平常 + ほのぼの卓球 (毎週)	平常
11:30	昼 食 休 息				
13:30	(平常) 芸術工芸 空き缶・たまご ほのレク・悠遊 + 悠遊マッサージ	平常	平常 会議(最終)	平常 + ほのぼの マッサージ	ホームシアター + ミーティング
14:50	降園準備（更衣・トイレ）				
15:30	送 迎 利用者降園				

※月の最終水曜日は13:30降園で職員は職員会議を実施。

### ⑦ 活動内容

#### ア 生活支援

日常生活における、衣服、履物の着脱、食事、手洗い、後片付け、掃除、排泄等を本人がやりやすい形の対応を心掛け支援した。

#### イ 活動支援

グループ活動、個別活動により創ることの楽しさ、協業の面白さ、各場面に応じた関わり等で主体的に過ごせるよう活動を支援した。

### ⑧ 利用者の状況

活動報告（人数重複あり）

班	人数	まとめ	活動内容
芸術工芸	12名	雑巾作りを行いiプラザで販売した。季節ごとに壁面飾りを作成し、四季を感じられるよう部屋の飾り付けをした。また、体を動かす活動としてバランスボールや卓球を取り入れ、体力の維持に努めた。	制作、壁面飾り作り、バランスボール、卓球、ドライブ、散歩 等
空き缶	14名	缶潰しや缶運び、プルタブ外しなどそれぞれができる作業を設定して分担して行った。職員が付き添い利用者のペースで実施できるように支援を行った。	アルミ缶潰し、アルミ缶運び、プルタブ外し、ドライブ、散歩 等
たまご	15名	巾着袋やすり鉢にたまごの殻を入れて、棒を使って個々に割りやすい方法で、たまごの殻割り作業を行った。たまごの製品にするための計量など、できる部分を協力しながら商品作りに参加した。	制作、花の肥料制作、egg art、積み木磨き、作品の納品、ドライブ、散歩 等

ほの レク	8名	感覚遊びなど五感で楽しめる活動や足湯など季節を感じられる活動を増やした。卓球の活動で車椅子から降り、立位でラケットを振るなど場面を設定しなおすことで、個々の利用者の参加の機会が増えている。商品開発や他班との調整が難しく、自主製品づくりまでは至らなかった。	自立課題、感覚遊び、ボール遊び、足浴、卓球、体操、光の部屋、制作、入浴剤作り、散歩 等
悠遊	11名	ボールを使ったゲームや音楽遊びなど、レクリエーションの活動を多く取り入れ、楽しく体を動かすことを行った。また、季節の制作にも力を入れ、作品ができると喜んでいる様子が見られている。	制作、光の部屋、紙芝居、音楽遊び、ホームシアター、釣り名人、ホールインワン、ドライブ、散歩 等

⑨ 医療的ケア

医療ケアの内容	利用者数
吸引 口鼻腔 気管切開	7名
経管栄養（胃ろう）	7名
経管栄養（経鼻チューブ）	1名
導尿（圧迫含む）	1名
吸入 酸素吸入	4名
与薬	13名
座薬	6名
呼吸器	2名

⑩ 作品販売実績

	作品売上額	販売品目
芸術工芸	15,400円	雑巾、ポストカード、ブレスレット等
空き缶	111,716円	アルミ缶
たまご	18,400円	花の肥料、egg art 等
悠遊	23,700円	くるみボタン、マグネット等

## (2) 障害児通所支援事業（放課後等デイサービス事業/児童発達支援事業）

学校へ通学する障害児・重症心身障害児に対し、日中や放課後の活動場所と利用者を中心とした活動を提供する。

また、障害児・重症心身障害児の自己選択と自己決定が尊重され、一人ひとりが主体的に、その人らしく充実した生活が実現できるように支援することを目的としています。

### ① 対象者

障害児、重症心身障害児

### ② 利用登録者数

9名(男8、女1)

### ③ 活動報告

本人たちがやりたい意欲を示す遊びや学びを一緒に探して、継続して楽しめる活動を行う。  
利用日数が増えたことで、児童同士が関わる時間が増えてきている。

### ④ 利用者の状況

月別利用者数（放課後等デイサービス）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施日数	19	22	18	22	19	15	22	19	16	16	18	19	225日
延べ利用者	49	58	41	69	54	37	56	48	44	43	49	53	601人

月別利用者数（児童発達支援）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施日数			3	2	0	1	1	1	1	1	1	1	12日
延べ利用者			3	2	0	1	1	1	1	1	1	1	12人

### ⑤ 医療的ケア

医療ケアの内容	利用者数
吸引 口鼻腔 気管切開	3名
経管栄養（胃ろう）	2名
経管栄養（経鼻チューブ）	1名
導尿（圧迫含む）	0名
吸入 酸素吸入	1名
与薬	5名
座薬	0名
呼吸器	0名

⑥ 日課表

平常時

時間	月 ~ 金
14:30	送迎 ・学校との連絡、情報交換
15:00	登園 ・登園、利用者受入れ ・健康チェック ・水分補給 活動 ・利用者に応じた活動を行う (療育、散歩、外出、レクリエーション、リラクゼーション 等)
17:00	降園 送迎 ・保護者との連絡、情報交換

長期休暇中

時間	月 ~ 金
	送迎 ・保護者との連絡、情報交換
9:00	登園 ・健康チェック ・水分補給
9:45	・朝の会 (出席、活動内容の確認)
10:00	・利用者に応じた活動を行う (療育、散歩、外出、レクリエーション、リラクゼーション 等)
11:30	・昼食準備
11:45	・昼食を食べる ・休憩
13:30	・利用者に応じた活動を行う (療育、散歩、外出、レクリエーション、リラクゼーション 等)
16:00	降園 送迎 ・保護者との連絡、情報交換

### (3) 短期入所事業

利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立った、適切かつ円満な指定短期入所支援の提供を確保することを目的としています。

① 対象者

知的障害者、重症心身障害者

② 定員

一日あたり5人とする。

③ 利用登録者数

15名

④ 利用日

毎月第2木・金曜日

※利用希望多数の場合は第3木曜・金曜日にも実施予定としたが、今年度は実施実績なし。

⑤ 活動内容

利用者が日常生活における適切な習慣の充実と、社会生活への適応性を高めることができるよう支援した。利用者本人の特性や個性に配慮し、利用者の状況に応じた支援を行いながら、健康管理にも努めた。

⑥ 利用状況

月別利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施日数	2	2	2	2	0	2	2	2	2	2	2	2	22日
延べ利用者	4	10	8	6	0	8	8	8	6	6	6	8	78人

8月は短期入所利用日前におおふじ学園でコロナ感染者がでたため自粛した。

#### (4) 日中一時支援事業

利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立った適切な日中一時支援事業の提供を行うことを目的としています。

① 対象者

知的障害児（者） 重症心身障害児（者）

② 定員

1日あたり5人とする。なお、重症心身障害児(者)については2人とする。

③ 活動内容

食事の提供、身体等の介護、健康管理、利用者又は家族に対する相談及び援助、その他の利用者の心身の状況に応じ、利用者の自立の支援と日常生活の充実に資するために必要な支援を行った。

④ 利用日

月曜日～金曜日までは、16時から19時まで 土曜日は、9時から16時まで

⑤ 利用状況

月別利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施日数	17	19	18	19	18	14	17	22	20	21	21	20	226日
延べ利用者	34	38	43	36	42	40	44	61	58	58	61	63	578人

下半期は保護者の勤務時間の関係で毎日利用する方があり、利用者数が増加している。

## (5) 入浴サービス事業（生活介護事業）

家庭において入浴することが困難な障害者に対し、社会福祉法人磐田厚生会おおふじ学園の機能を利用して入浴サービスを行うことにより、当該障害者及びその家族の福祉の向上を図ることを目的としています。

### ① 対象者

身体障害者福祉法に規定する級別2級以上（肢体不自由）に該当し、身体障害者手帳を有する者であって下記の項目に該当する者とする。

ア 肢体に著しい障害があるため居宅の入浴設備において入浴することが困難な者。

イ 医師が入浴を可能と認めた者。

### ② 利用登録者数

10名

### ③ サービスの内容

ア 入浴及び洗髪

イ 衣服の着脱

ウ 血圧、脈拍及び体温の測定

### ④ 利用状況

月別利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施日数	19	23	19	22	19	14	22	20	18	18	19	20	233日
延べ利用者	48	60	47	55	46	33	54	55	44	37	48	49	576人

9月はコロナのため利用者数が減っていて、1月は週2回利用する利用者が体調不良で利用を見送っていたため、利用者数が減っている。

## (6) 相談支援事業（サポートセンターおおふじ）

利用者又は障害児者の保護者（以下「利用者等」という。）の意志及び人格を尊重し、常に当該利用者等の立場に立って行います。利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるように配慮し、利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、利用者等の選択に基づき、適切な指定計画相談支援等の提供を確保することを目的としています。

### ① 対象者

身体障害者、知的障害者、精神障害者、障害児（身体・知的・精神）

### ② 利用登録者数

「身体・知的障害者」・・・47名（うち学園外部16名）

「障害児（身体・知的・精神）」・・・23名（うち学園外部21名）

総登録者数・・・70名

### ③ サービスの内容

アセスメントに基づき、当該地域における指定障害福祉サービス等が提供される体制を勘案して、当該アセスメントにより把握された解決すべき課題等に対応するための最も適切な福祉サービス等の組み合わせについて検討した。利用者及びその家族に対する意向、総合的な援助の方針、生活全般の解決すべき課題、提供される福祉サービス等の目標及びその達成時期、福祉サービス等の種類等を記載したサービス等利用計画の作成をした。定期的にモニタリングを実施し報告書を作成した。また、計画作成以外でも相談があれば対応した。新規サービス利用、新規事業所利用などの相談も実施した。

### ④ 利用状況

月別利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計画	6	5	1	3	2	2	1	3	1	1	2	2	29件
モニタリング	12	16	10	9	14	8	13	13	10	7	14	10	136件

今年度は事業所移行、死亡等契約終了者も数名あった。児童（児童発達支援事業・放課後等デイサービス）の利用希望が多く、前年度より登録人数としては増加した。大人の方に関しては引き続き今後の生活についての不安や家族の体調不良等の相談が増えている。